

## 週日の説教

金 大烈 神父 2009年6月23日(火)

《福音的に生きていますか？ ~生き方の中に、美しさがありますか？ ~》

今日の福音(マタイ7・6、12 14)には、いくつかのメッセージがありますが、皆様がよくご存知のメッセージです。その中で、目にとまったのは、「自分が人にやってもらいたいことは、あなたが先にやってあげなさい。(人にしてもらいたいと思うことは何でも、あなたがたも人にしなさい。)」という言葉です。逆に言いますと、「自分が聞きたくないことは人にも言わないように。」という意味になると思います。そして、最後に書かれている、「狭い門から入る者は少ない。できるだけ狭い門から入りなさい。よくない門は広くてあなたがたをいつも誘っている。」というお話です。

「してもらいたいことは、自分が先にしてあげる。聞きたくない話は自分でもしない。」ということ、簡単に言えば「配慮する」ということです。思いやりを持って、本当に相手のことを考えることです。言葉の上では、易しいですが、自信を持って「実行しています」と言える人は、とても少ないのではないのでしょうか。なぜならば、私たち人間は、どれほど「善い人になろう」と頑張っても、やはり自分中心になってしまう癖を持っているからです。

ところで皆様、場合によっては、聞きたくない話、聞く相手はたぶん辛い気持ちになるだろう、と思われるような話をしなければならぬことがあります。たとえば、父親が子どもを叱らなければならない時があります。父親が子どもに対して持っている愛は、証明しなくてもみんな分かっています。そういう時、どうすれば、この福音を正しく理解できるのでしょうか。

今まで何回も繰り返して申しあげたことを思い出してください。私たちの生き方の基準は何でしょうか。自分が正しく生きているのか、正しく生きていないのか、上手く生きているのか、それとも振り返って反省しなければならないのか、判断する基準は何でしょうか。皆様、ご存知ですよね。キリストです。キリストのことを福音と言いますね。ですから、福音的に生きているかどうかを考え、福音的に生きている、と思えば自分の人生は成功しているし、そうではなければ、失敗していることになります。

では、福音的なこと、とはどういうことでしょうか。何を福音的というのでしょうか。人の振る舞いを見て、あの人は本当に福音的な生き方をしている、と思うことがありますよね。逆に、あの人は言葉では「神様」「神様」と言っているけれど、全然福音的な生き方はしていない、と思うこともあります。何を見てそのように考えるのでしょうか。

もう一度復習しましょう。それが福音的か、福音的でないかの基準は、「その中に美しさがあるかどうか」です。どれほど善いことをしても、その中に美しさがなければ、それは嘘です。欺瞞(ぎまん)です。だましです。しかし、どれほど悲しくて疲れている姿を見せていても、そこに美しさがあればそれは福音的なことです。

皆様、もし、父親・母親が、子どもに厳しい話をしたとしましょう。しかし、その中に父としての、母としての、子どもを心配する心が入っていれば、それは美しいです。それは子どもにも分かります。私たちも同じではないかと思えます。皆様、誰かを裁くとき、批判するとき、アドバイスするとき、まずその中に美しさがあるのか考えてみてください。少し傷みがあっても、自分が犠牲になっても、嫌がられても、そこには美しさがあると思えたら、自信を持って実行なさってください。

今の弱虫の父親、母親達のことを考えてください。子どもを怖がっています。何か言ったら、逆に仕返しされるのではないかといつも心配ばかりしているのです。それは親子の関係ではありません。皆様が本当に信念を持って言っていることを子ども達にはっきり示せれば、子ども達は絶対親を憎むことはありません。

これが信徒の間でも、全ての係わりの中でも、必要な基準ではないかと思います。よく考えてみてください。正義を表すため、と言いながら、実は自分をよく見せるためになってしまっている場合もあります。奉仕のため、と言いながら、結局は自己満足のためになってしまっていることもあります。何かをするとき、何かを考えると、そこに美しい心があるかどうか、よく考えてみてください。美しいければ何かの感謝の心が生じると思います。

ありがとうございました。